

難治性疾患克服研究事業

～希少難病に光を～

研究体制

難病の克服へ

重点研究

- 臨床調査研究の成果に基づき、成果の期待できる具体的なテーマを集中的に研究
 - ・病態解明に関するブレークスルーを目指す研究
 - ・画期的診断法・治療法の開発を目指す研究
 - ・比較的大きな規模の臨床研究

臨床調査研究

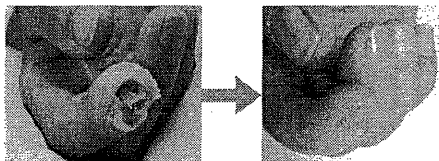
- 対象123疾患について分野別に研究班を組織
- 疾患の実態解明、診断・治療法の開発・普及等を図る
- 標準的診断・治療法の普及など医療の質の向上に貢献

横断的基盤研究

- 疾患横断的な手法により難病研究や医療の基盤を整備
- 疫学、QOLの向上、地域医療体制の確立、免疫学的手法、微生物学的原因究明などをテーマとして実施
- 臨床調査研究班と連携して研究を実施・成果を還元

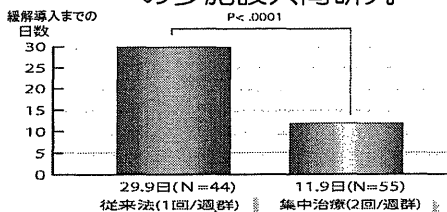
取り組み例

難治性血管炎に対する血管再生療法の開発



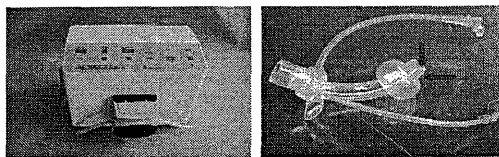
●強皮症等による難治性の潰瘍に再生医療を応用

潰瘍性大腸炎の顆粒球除去療法の多施設共同研究



●臨床調査研究の一環として臨床研究を実施

自動痰吸引器の開発と臨床応用



●在宅人工呼吸器患者は頻繁に痰の吸引を必要とし、家族の負担も大きい
→自動的に痰を吸引する技術の実用化を推進

平成20年度の方針(案)

◆目的が明確な具体的な研究課題を重点的に実施

◆治療法開発・確立のための臨床研究を重点的に公募

◆他の研究資金が乏しく研究を求める要望が極めて大きい希少疾患を研究

◆研究の必要性の高い疾患を有識者により選定

◆医学研究の社会への還元によりQOLの向上を目指すテーマなどを中心に推進